

放射性セシウムの森林からの流出が淡水魚の濃度に与える影響に関する解析的検討

Numerical study of transport pathways of radiocesium from forests to freshwater fish

*操上 広志¹、佐久間 一幸¹

*Hiroshi Kurikami¹, Kazuyuki Sakuma¹

1. 日本原子力研究開発機構

1. Japan Atomic Energy Agency

福島第一原子力発電所事故以降、福島県内の多くの河川において淡水魚の出荷制限が続いている。淡水魚に取り込まれる放射性セシウムは主に森林から供給されていると考えられており、主要なセシウム供給源の特定は将来予測において重要である。本研究では、流域スケールでの放射性セシウムの環境動態を簡易的に表現するコンパートメントモデルを構築し、落葉の河川への直接流入、落葉層から河川への側方流入、土壌層から河川への溶出の各経路が淡水魚の放射性セシウム濃度に与える影響を解析的に検討した。その結果、淡水魚中の放射性セシウム濃度は、落葉層から河川への直接流入と落葉層から河川への側方流入が主に寄与していることが示唆された。このようなセシウム供給源、経路の特定は将来予測や対策の検討に役立つことが期待される。

キーワード：福島第一原子力発電所事故、森林、淡水魚

Keywords: Fukushima Dai-ichi NPP accident, forest, freshwater fish